

当院未熟児センターにおける収支状況

(分担研究：新生児救急医療システムに関する研究)

五十嵐 郁子

要約：新生児医療は経済的な面では病院の中で不採算部門といわれている。国立岡山病院未熟児センターにおいて、未熟児医療費の収支の実際を検討した処では黒字であった。これは人件費が低いことによるものであるが、将来収支バランスの安定を計るために、基本的入院料の新生児加算を期待したい。

研究方法：当院未熟児センターに昭和63年10月および11月に入院した未熟児全員について、その健康保険のレセプトから総収入、診療内容別点数およびその比率、出生体重別の1人1日平均点数、治療時期別の平均点数などを算出した。支出は勤務者の実際の給与、材料費、経費の1ヵ月平均を計算し、収支の比率を求めた。

結果：昭和63年10月、11月の2ヵ月間に未熟児センターに入院した未熟児は61例で、延入院日数は1,628日、1日平均入院数は26.7人であ

る。各月別の入院数は殆んど同数であるため、総収入にも差は見られない。1ヵ月間の総点数の平均、および診療内容別の平均点数の比率、1人1日平均点数は表1の如くである。未熟児の場合基本入院料の占める比率が高く、78.6%であり、これに反し注射投薬などは僅かに1.44%である。

出生体重別の平均入院費は表2に示す如く、1,000g未満が最も高く、体重が大きくなれば順次低くなっているのは当然の結果である。

表3に示すように保育器収容期間はコット

表1 当院における未熟児入院費

	10月	11月	合計	総点数に対する比率	1人1日平均点数
総点数	1488088	1467738	2955826		
基本入院料	1175379点	1146582点	2321961点	78.56%	1426.3
注射、投薬、輸血	21934	20793	42727	1.44	26.2
処置	91084	91286	182370	6.17	112.0
検査	183060	183410	366470	12.40	225.1
画像診断	3631	3967	7598	0.26	4.7
初診、往診、他	13000	21700	34700	1.17	21.3
延入院日数	821	807	1626		
1日平均入院数	26.5	26.9	26.7		
1人1日平均点数	1812.5	1818.8	1815.6		

表 2 出生体重別1日平均入院費(10, 11月)

出生体重	例数	延入院日数	1日平均点数
1000g未満	9	453	2350.7
1000～1499	10	376	1773.0
1500～1999	16	393	1631.3
2000～2499	26	406	1435.5
計	61	1628	1815.6

収容期間の約2倍の点数であり、これは入院期間が長くなる程基本的入院料が低くなるのが影響しているが、更には intensive care nursery と growing nursery の差といえよう。

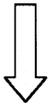
次に支出であるが、最も重要な人件費は医師5人、看護婦13人、他の職種3.6人(X線、臨床検査技師、事務職員の患者数に比例した人数)の合計給与の1ヵ月平均は7,917,022円で1ヵ月の総収入に対する比率は53.6%となっている。材料費は医薬品が極めて少なく5.2%、医療用

器材10.4%、給食材料費は0.8%である。これに反し、経費は光熱水料、燃料その他を含め23.5%と他の病棟より高く計上されている。以上を合計し、未熟児施設における収入に対する支出比率は93.5%と黒字を保っている。

考察：われわれの病院における未熟児医療費の実態を分析した結果、現在の段階では収支はプラスであるが、その理由は人件費の率が低いことで、特に看護婦数が少ないことによるものである。国立の病院は定員が押さえられているという背景があり、その中で新生児医療に対処するには看護業務の簡素化、医師と看護婦の仕事の分担など苦心を要する点は多い。収入の面では未熟児は基本的入院料の占める比率が高いため、新生児加算などの方法により増収を計ることを将来期待したい。

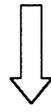
表 3 治療時期別未熟児入院費(10, 11月)

	保育器収容期間		コット収容期間	
1日平均入院数	15.9		10.8人	
延入院日数	970日		658日	
基本入院料	1621575	74.09%	700386	91.28%
注射、投薬、輸血	35098	1.60	7629	0.99
処置	169494	7.74	12876	1.68
検査	330405	15.10	36065	4.70
画像診断	4981	0.23	2617	0.34
初診、往診、他	26980	1.23	7720	1.01
計	2188533		767293	
1人1日平均点数	2256.2		1166.1	



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:新生児医療は経済的な面では病院の中で不採算部門といわれている。国立岡山病院未熟児センターにおいて、未熟児医療費の収支の実際を検討した処では黒字であった。これは人件費が低いことによるものであるが、将来収支バランスの安定を計るために、基本的入院料の新生児加算を期待したい。